

令和5年度学力調査実施事業の取組について

三次市立作木中学校

1 令和5年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

(1) 国語

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
		自校	市	全国		
第1学年	知・技	47.2	54.0	53.6	<p>○「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の問いに75%が肯定的である。</p> <p>○必要に応じて記録しながら話の内容を捉えたり、指定された長さで文章を書いたりするなどは80%を超える通過率である。</p> <p>●「分からない言葉がある時は電子辞書を含む国語辞典を使いますか」の問いでは使わない生徒が58%いる。</p> <p>●文法・語句に関する事項が22.9%（全国比-22.7）と最も低く、次いで文学的文章の読み取りが50%（全国比-19.8）となっている。</p>	<p>・文法・語句については、文節や単語、歴史的仮名遣いについて理解度が低いため、定期的に復習を行い、定着を図る。</p> <p>・辞書の使用を今以上に日常的に行わせる。得た語彙や言い回しなどの知識を使って自分の言葉で書いたり説明したりして表現させる。</p> <p>・文学的文章において、心情表現や情景描写などを基に登場人物の心情を捉えたり、自分の意見の根拠となる部分を叙述から探したりしながら読解力を鍛える取組を継続する。</p>
	思・判・表	56.8	67.5	65.6		
	態度	65.0	66.8	60.0		
第2学年	知・技	71.4	71.9	70.2	<p>○「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の問いに75%、「日常生活の中で自分の思いや考えを積極的に話していますか」には100%の生徒が肯定的に答えている。</p> <p>○漢字の読み書き、故事成語や歴史的仮名遣いなどを含む古典の読み取り、文学的文章の内容の読み取りは70～100%の高い通過率である。</p> <p>○「基礎」が全国を上回っている。</p> <p>●「論理の展開に注意して、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」設問は25%（全国比-22.3%）、「情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って文章を整える」設問は0%（全国比-39%）、「指定された長さで文章を書く」設問は25%（全国比-30%）である。つまり書く力に課題がある。</p>	<p>・今ある語彙力や読解力を更に伸ばすために難解語句の意味を調べたり、それらを使って表現したりする取組を継続して行う。</p> <p>・自分の考えを書く練習を継続して行う。複数の情報に関連させ、指定された字数や文型などの条件を守って書く練習を繰り返す。また、相手に分かりやすい文や構成になっているか、条件は守れているかなど生徒同士で交流し深めさせる。</p>
	思・判・表	48.4	67.6	62.9		
	態度	35.0	60.3	50.6		
全体	<p>●1学年は「知識・技能」、2学年は「思考・判断・表現」と、学年ごとに課題がはっきりしている。</p> <p>●全国平均または市平均を下回っており、課題が大きい。</p>				<p>○国語の学習に対して肯定的な思いを持っている生徒が多い。</p> <p>●文法や語句、古典の基礎知識、文学的文章を読む力、書く力について十分な力がつけられていない。</p>	<p>・「知識・技能」については、漢字練習や小テスト、意味調べやその活用、更に文法、古典の基礎知識などの反復練習を継続し、知識の定着をはかる。</p> <p>・「思考・判断・表現」については、文章を要約したり条件に合わせて表現したり、自分の考えを交流できる場を引き続き設定する。</p>

(2) 社会

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	<p>○知・技の数値が63.4(全国62.3)%であり、平均を上回った。</p> <p>○世界の諸地域の正答率が65.0(全国60.4)%であった。</p> <p>●思・判・表の数値が45.1(全国53.6)%であり、全国平均を下回った。</p> <p>●「中心からの距離と方位が地図についての理解をもとに、地図を読み取っている。」25.0(全国38.3)%であった。</p> <p>●「都の移動について、複数の資料をもとに考察し、表現している。」0.0(全国31.3)%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る視点を提示し、読み取り方を身に付けさせる。また、読み取った内容を根拠に表現する学習を増やす。 ・資料をもとに交流し、様々な視点の意見から、自らの考えを深めさせる。 ・視聴覚教材・タブレットを活用し、生徒の興味・関心を高める。
	知・技	63.4	60.1	62.3		
	思・判・表	45.1	50.6	53.6		
	態度	50.0	55.0	55.7		
第2学年		自校	市	全国	<p>○「社会の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じたことがありますか。」の問いに75.0%が肯定的な回答だった。</p> <p>○日本の地域的特色と地域区分の正答率が62.5(全国56.1)%であった。</p> <p>●知・技の数値が38.2(全国48.0)%であり、平均を下回った。</p> <p>●「九州地方の農業の特色について理解している。」0.0(全国40.7%)であった。</p> <p>●「豊臣秀吉による朝鮮への出兵について、資料をもとに判断している。」0.0(全国29.3%)であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「知・理」の定着のため、学習内容をふり返る時間を増やす。また、小テスト等により、学習の定着度を確認する。 ・視聴覚教材を活用し、資料の読み取りを行うとともに、生徒の興味・関心を高める。 ・学習のまとめ等において、理解の深まり・広がりのある探求的な学習を行う。
	知・技	38.2	49.7	48.0		
	思・判・表	40.9	45.1	40.5		
	態度	40.6	45.0	40.9		
全体	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生は、「思・判・表」に課題がある。 ●2年生は、「知・理」の課題が大きい。「思・判・表」にも課題がある。 				<ul style="list-style-type: none"> ○1年生は、全国平均並みの「知・理」の定着が見られる。 ●1年生は、資料の読み取り、資料をもとに考察することに課題がある。 ●2年生は、地理・歴史ともに「知・理」に課題が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り、読み取った内容を根拠に表現させる時間を増やす。 ・学習の定着度を確認し、学習内容をふり返る時間を増やす。

(3) 数 学

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	○「具体的な事象とグラフを関連付けて読み取る問題」83.3（全国62.0）％ ○「数学の時間にいろいろな考え方を発表し合うことは好きか」肯定的な回答が58.4（全国50.5）％である。 ●「負の数の大小関係の理解」8.3（全国52.8）％ ●「正負の数の除法ができる」25.0（全国64.5）％ ●「簡単な一次方程式を解くことができる」33.3（全国70.6）％	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着が急務である。 従来の指導方法では、定着できない生徒が多いため、導入を工夫し考えさせる場面を絞った授業を行う。 多様な考え方を発表することに好意的な評価が高いので、引き続き生徒の考えを活かした指導に取り組む。
	知・技	42.0	59.2	58.6		
	思・判・表	30.6	38.0	41.0		
	態度	30.1	41.4	44.1		
第2学年		自校	市	全国	○「加減法の原理を理解し、それを使って連立方程式を解くことができる」100（全国66.9）％ ○「数学の時間にいろいろな考え方を発表し合うことは好きか」肯定的な回答が75.0（全国46.1）％である。 ●「等式を変形して、式をある文字について解くことができる」0.0（全国45.0）％ ●「連立方程式を利用して、文章問題を解くことができる」0.0（全国56.5）％ ●「 x 軸に平行な直線の式を選ぶことができる」0.0（全国46.0）％ ●「グラフの切片が表す数量を指摘することができる」0.0（全国40.2）％	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着が急務である。 特に導入等に工夫し、学習に取り組みやすいよう工夫する。 考えさせる場面を絞った授業を行う。 多様な考え方を発表することに好意的な評価が高いので、引き続き生徒の考えを活かした指導に取り組む。
	知・技	40.9	54.2	55.6		
	思・判・表	20.0	34.7	37.9		
	態度	12.5	31.3	34.1		
全体	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生、2年生ともに、どの観点も全国平均を大きく下回っており課題が大きい。 				<ul style="list-style-type: none"> ●1年生は、基礎及び数と式が特に全国平均との差があり課題が大きい。 ●2年生は、活用及び数と式が特に全国平均との差があり課題が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生は、数と式の単元において基礎計算の復習を入れながら指導を進めていきたい。 ●2年生は、数と式の単元の中の文章題等の指導において場面設定の読み取りに重点を当てるなどの工夫をする。

(4) 理科

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	○活用における正答率が全国平均並みであった。60.2% (61.5%) ○「動物の分類」の正答率が高い。 ●領域別において「粒子」についての正答率が低い。特に、「気体の性質：45.8% (62.7%)」と「物質の状態変化41.7% (54.5%)」については正答率が低かった。	・気体の性質および発生方法を小テストなどを用いて定着させる。また、気体の性質によって集め方が異なることも再度定着させる。 ・蒸留についての知識に課題があるため、もう1度蒸留の実験を行い、蒸留についての知識を深めさせる。
	知・技	55.4	56.4	61.4		
	思・判・表	53.8	58.4	59.9		
	態度	59.7	65.5	64.9		
第2学年		自校	市	全国	○活用における正答率が全国平均を上回っていた。57.5% (47.1%) ○領域別において「粒子」「生命」について正答率が高かった。特に、「物質の成り立ち：81.3% (67.5%)」と「生物と細胞：83.3% (64.0%)」については正答率が高かった。 ●「動物のからだのつくりとはたらき：25.0% (50.4%)」および「化学変化：41.7% (49.9%)」に関する正答率が低い。	・消化液、消化酵素と栄養素の関係に関する知識に課題があるため、小テストなどを用いて知識の定着をさせる。 ・化学変化に関わる実験結果について、反応前後の化合物の組成や質量保存の法則について、原子や分子のモデル図を用いて視覚的に理解させる。
	知・技	60.5	61.2	60.7		
	思・判・表	54.5	53.4	50.5		
	態度	66.7	55.3	50.6		
全体	○2年生の「態度」が全国平均より15点以上高い。 ●1,2年生ともに「知識・技能」に課題がある。				○活用における正答率が比較的高い。 ○1,2年生ともに「生命」の領域の正答率が高い。 ●1,2年生ともに「粒子」の領域の正答率が低い。	・「知識・技能」については、小テストや授業中にドリルタイムを設定し、知識の定着をはかる。 ・観察・実験では、いろんな事物や現象について、問題(課題)を見いださせ、見通しをもった学習活動の場を設定する。

(5) 英語

学年	結果				【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から 見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年		自校	市	全国	<p>○「英語の勉強は好きですか」の問いに75%の生徒が肯定的に答えており、全国平均を11.3ポイント上回っている。5ラウンドシステムにより、生徒に問って分かりやすい授業となっていると考える。</p> <p>○「学校の廊下で、外国人講師の先生に話しかけられたらあなたはどのようにしますか」の問いに100%の生徒が「積極的に」、あるいは「なんとか英語で会話しようとする」と答えている。コミュニケーションに対する意欲を高める授業となっていると考える。</p> <p>○絵を適切に表している英文を聞き取る問いの正答率は3問中2問が100%であった。5ラウンドシステムにより、イラストを見ながら音声と結び付けることができている。</p> <p>○文脈に応じた内容を読み取る問いの正答率は全国平均を7ポイント上回り、50.0%であった。5ラウンドシステムにより、ストーリーの流れを読み取る力をつけることができていると考える。</p> <p>●3文以上の英作文について、無解答率が50%である。書く活動がまだ十分にできていない。</p> <p>●場面に応じて書く英作文の正答率が12.5%で最も低い。正しい英文の形がまだ定着していない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3文以上の英作文について、無解答を減らすために、「書く」活動は毎時間行う。 ・書かせるための手立てとして、教師がモデルを聞かせる。 ・書かせるための手立てとして、教科書のリスニングや音読を繰り返し行い、場面に応じた表現をしみ込ませる。 ・書かせるための手立てとして、スモールトークやスピーチなどの話す活動を繰り返し、音声をしみ込ませる。
	知・技	49.4	63.7	65.3		
	思・判・表	28.4	44.4	45.2		
	態度	14.3	34.9	37.0		
第2学年		自校	市	全国	<p>○「英語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の問いに75%の生徒が肯定的に答えており、全国平均を3.7ポイント上回った。英語を自分の生活と結び付けて考えさせることができている。</p> <p>○「語形・語法の知識・理解(正答率75%)」や「語彙の知識・理解(87.5%)」の問いでは、全国平均をそれぞれ15.8、3.0ポイント上回っている。毎時間行った文法指導が効果的であった。</p> <p>●絵を適切に表している英文を聞き取る問いの正答率は58.3%であり、全国平均を24.3ポイント下回っている。複雑で詳しい内容の聞き取り練習が十分にできていない。</p> <p>●「必要な情報」「要点」を聞き取る問いの正答率は0%であった。「聞く」ことの活動において、何を聞きとればよいか、目的を示した活動になっていなかった。</p> <p>●「単語の並べかえによる英作文」の問いでは、4問中3問で正答率0%であった。接続詞、不定詞、疑問文の語順が定着していない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・細かいところまで聞き分けることができるように、様々な場面・状況のリスニングを増やし、聞き取りのポイントをつかませる。 ・「必要な情報」「要点」を聞き取ることができるように、様々な目的・場面・状況を設定した活動を行う ・テキストのストーリーについて、深く聞き取ったり、読み取ったりする問いを投げかける。 ・ただ繰り返すだけ活動にならないよう、目的を明確にした活動を行う。 ・英作文の力をつけるために、「書く」活動は毎時間行う。 ・英作文の力をつけるために、ラウンドでのテキストインプットを強化する。
	知・技	51.6	55.1	58.1		
	思・判・表	35.0	38.3	40.4		
	態度	32.1	36.3	36.7		
全体	<p>○知識・技能が思考・判断・表現を上回っている。</p> <p>●全国平均、市平均を下回り、課題が大きい。</p>				<p>○英語学習に対して肯定的な思いを持っている生徒が多い。</p> <p>●「聞くこと」「書くこと」について、十分な力がつけられていない。繰り返し学習が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラウンドの時間を充実させ、テキストインプットを強化する。 ・3年間で総合的な英語の力をつけていくための年間指導計画の見直しを行う。

2 令和6年度全国学力・学習状況調査に向けた取組

- (国語)・「知識・技能」については、漢字練習や小テスト、意味調べやその活用、更に文法、古典の基礎知識などの反復練習を継続し、更に定期試験で毎回出題するなどして知識の定着をはかる。
- ・「思考・判断・表現」については、文章を要約したり条件に合わせて表現したり、自分の考えを交流できる場を引き続き設定する。
- (数学)・3月の残りの全授業時間で2年の学習内容について、基礎基本の確認をしながら総復習をする。
- ・タブレットドリルによる学習を促し、学習内容の定着を図る。
- (全体)・読解力を育成するため、毎朝のHR前の時間に、朝読書や新聞の読み取り感想文の作成をさせる。
- ・毎日午後のHR前に、課題学習プリントの教え合い(作中タイム)の時間を充実させる。
 - ・各教科において、基礎的・基本的な事項について、小テスト等を実施し、学習の定着度を確認する。また、そのことを日々の授業に生かしていく。